

---

**仮面ライダー龍騎、城戸真司が助けた女の子は実は・・・・・・・・。**

ゼロディアス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダー龍騎、城戸真司が助けた女の子は実は……。

### 【Nコード】

N7654K

### 【作者名】

ゼロディアス

### 【あらすじ】

完全な想像ですので、その辺をご理解ください。

仮面ライダー龍騎の最後の戦いの時に城戸信司が助けた女の子はあの人だった。

これは仮面ライダー騎騎のもう一つの可能性の話です。

(前書き)

初短編です。  
暗いです。

まだ私が小さかった頃町中に鏡から出た怪物が人々を襲ってる、私  
はお母さんとはぐれてしまい一人泣いていた。  
そんな時怪物が襲いかかってきた。

青年

「危ない！」

少女

「!？」

一人の青年が私を庇った。

そのせいで男の人は大怪我をしてしまう。

青年

「うぐ……、大丈夫？」

少女

「う、うん。」

青年

「早く、逃げて。」

そして私は男の人にそう言われて逃げる。

逃げる際に男の人を振り向くと……。

青年

「う、ああ、変身。」

男の人は赤い龍のような仮面の戦士になって鏡に入ってしまった。  
その後お母さんを見つけ男の人の所に行くとその人は倒れていた。

数年後。

私は今中学校の帰りで友達のカイトテストタロッサ・ハラオウンち

やんと八神はやてちゃんと一緒に帰っていた。

その時丁度花屋の前だったのである事を思い出した。

そうだ、今日のはあの人の命日だ。

私、高町なのはは花屋に向かう。

なのは

「ごめんね、ちょっと寄らせて。」

フェイト

「う、うん。」

はやて

「ええよ。」

そして私は花を買う。

フェイト

「どうしたのなのは？」

はやて

「なんで花なんか買ったんや？」

二人に言われて私は昔の事を話、すると二人とも一緒にその人のお墓に行くと言い、三人であの人のお墓の前に居る。

なのは

「有難う、城戸信司さん。」

そう言っって私は花をお墓に備える。

(後書き)

仮面ライダー龍騎の最終回がよく解らなかつたのでこんな話を書きました。

また色々な短編を連載して書こうと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7654k/>

---

仮面ライダー龍騎、城戸真司が助けた女の子は実は……………。

2011年10月21日10時29分発行